

日本語用論学会 Newsletter 第2号

1999年7月14日

日本語用論学会事務局発行

会員の皆様、お変わりありませんか。日本語用論学会Newsletter第2号をお届けします。

★1998年度の会計報告

本学会の会計年度は毎年3月末日となっています。昨年度の会計報告は下記の通りです。

収入の部

項目	決算
前年繰越金 (普通預金)	0
年会費 学会会員	412,000
その他 当日会費	106,000
予備集収入	62,340
合計	580,340

支出の部

項目	決算
印刷費 予備集	278,460
ポスター	21,000
郵送料(切手等)	39,090
事務局諸費 (ゴム・角印・文房具・アルバイト等)	40,650
通信費	10,402
学会当日諸費用 (アルバイト・弁当代・文房具・コピー)	92,299
次年度繰越金 普通預金	89,414
現金	9,025
合計	580,340

★学会費の払い込み

1999年度会費の振り込みについては、大会当日は納入受付が大変混雑しますのでなるべく郵政省の「払込取扱票」をお願い致します(口座番号 00900=3=130378 金額4000円)。

★研究発表募集

今年度の大会は、12月4日(土)に、立命館大学「国際平和ミュージアム」で開催される予定です(プログラムは9月に決定)。先日、児玉徳美先生(立命館大学)と一緒に会場を見学いたしました。素晴らしい会場で、大会が楽しみです。児玉先生のご配慮に深く感謝申し上げます。研究発表につきましては、「研究発表応募規定」を参照の上、皆さん、奮ってご応募下さい(締め切りは8月末日)。

★『語用論研究』投稿募集

現在、本学会の学会誌『語用論研究』への投稿募集中です。投稿規定は第1回大会の「プログラム・アンド・アブストラクツ」に記載されているとおりです。多数のご応募をお待ちしています（締め切りは8月末日）。

★海外語用論便り（中国の場合）

関西外国語大学の余維先生から下のような記事を書いていただきました。中国でも語用論学会はとても盛んなようですね。なお、7月7日、わが学会より中国における「第6回語用論シンポジウム」（於 重慶・西南師範大学）に向けて、何自然会長宛に祝電を打ちました。

(a) 国際語用論学会学術情報資料センターの設立

国際語用論学会 (IPrA, 本部ベルギー) 秘書長 Jef Verschueren 教授の提案により、中国での学術情報ネットワークとして、1988年、広州外国語学院（現広州外語外貿大学）言語学と応用言語学研究所内に上記の情報資料センターが設立された。（『現代外国語』1989.1）

(b) これまでの中国の語用論シンポジウム

1989. 第1回中国語用論シンポジウム（広州・広州外語学院）

1991. 第2回（済南・山東大学）

1993. 第3回（临汾・山西師範大学）

1995. 第4回（昆明・雲南師範大外語学院）

1997. 第5回（長春・東北師範大学）月刊『言語』（大修館）98.1.p81をご参照

中国の語用論シンポジウムは2年一度開かれ、現在の回数は、国際語用論学会の大会とはほぼ同じである。なお、これまでの5回の中国での語用論シンポジウムに、国際語用論学会 (IPrA) 秘書長 Jef Verschueren 教授はすべて出席しているとのことである。

(c) 最新情報：

1999. 7/7-9. 第6回語用論シンポジウムが開催予定。（重慶・西南師範大学）

テーマ： 1) 語用論と認知、2) 談話の構造と理解、3) 語用論と異文化コミュニケーション、4) 対照語用論、5) 語用論と翻訳、6) 語用論と外国語教育

1999. 7/20-8/3. '99年語用論と社会言語学サマーセッションが開催予定。

（広州・広州外語外貿大学）

テーマ： 1) 言語行為と会話分析、2) 発話の場面と談話の理解、

3) 推意、認知と関連性理論、4) 言語と社会文化、5) 言語の接触

（事務局長 澤田治美記）